

丹鶴叢書

草根集 十四

093.1

2006

佛教大學圖書館



2005494887





草根集第十四

長祿二年正月朔日試筆とく三首



春 天久々の天まきく神代はなせりうやまもまきむ

春 地 まくく新やうのりや志くくんはのまゆのまゆあめ

春 人 梅枝本まきまきまきまきめ法人のくもとまきけり

五日武田大膳大支信賢の家より浪あまふ

立 春 氷うち出るはの袖尾花をまきくまゆのまゆせ

寄山 忘 我心を入袂けりまきけりくひくひく山の忘か

古山 猿 雨をまきのまきまきまきまきまきまきまき

佛 寺 うはまきまきまきまきまきまきまきまきまき

六日畠山修理大夫入道受良公の讀みありし
 梅薫風 吟梅の早のまをれもくもくよの霞の現よりよき風
 敷 冬 去りて遠めくもくもく女らもくもくもくもく乃花
 夏 恋 風はよりのやのなもくもくもくもくもくもくもく
 旅 宿 かな移りたるあしなむかへし世のたつたたゆまぬ
 八日下部敏景奥行の月次ありし

庭松久緑 春のそよ風のそよけぬや緑らぬをばの松を
 夜 ^{當坐} 梅 風や志いつくもくもく梅なんたるもくもくもくもく
 帰 鳥 去せくもくもく向ふ天つ層の雲や一乃きりぬ
 和詞意 かなぬもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

子規

澗 水 瀏々たるせし白き谷河をめぐりてそよ風の松

十九日兵部少輔政清家の月次あり

鶴千年友 まもつたのまもつた時あへんたるもくもくもくもくもくもくもく
 早春 鳥のこゝろもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 花 ふもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 空 藻 恋 かなぬもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 嶺 雲 白きの花より落るはなもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 泊 煙 友よりのそよ風のそよたもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 廿日招月草庵の月次あり

門柳漸緑 めもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 緑の昔の松ま

千鳥書言

早當坐

春

あけぼのの光をうけてははるの朝

藤

あけぼのの光をうけてははるの朝

見

恋

あけぼのの光をうけてははるの朝

旅

宿

あけぼのの光をうけてははるの朝

廿四日修理主人家の月次

梅花渡年

あけぼのの光をうけてははるの朝

初

春

あけぼのの光をうけてははるの朝

初

鴈

あけぼのの光をうけてははるの朝

初

逢

あけぼのの光をうけてははるの朝

山

家

あけぼのの光をうけてははるの朝

廿六日高松大神宮神前法樂の合

山

朝

あけぼのの光をうけてははるの朝

餘

寒

あけぼのの光をうけてははるの朝

社

頭

あけぼのの光をうけてははるの朝

廿七日山名彈正少弼教豊家

初

春

あけぼのの光をうけてははるの朝

呼

子

あけぼのの光をうけてははるの朝

宮

星

あけぼのの光をうけてははるの朝

曉

鷄

あけぼのの光をうけてははるの朝

名

所

あけぼのの光をうけてははるの朝

梅花夕芳 家の岡の梅の影をいそいで思はれし梅の花

苗 當坐 代いそいで梅の影をいそいで思はれし梅の花

恨 世縁をいそいで梅の影をいそいで思はれし梅の花

祝 紫雲をいそいで梅の影をいそいで思はれし梅の花

ホメる三井も佛長院僧がもて井病のいそいで思はれし梅の花

しおかし

いそいで思はれし梅の花

いそいで

せうし我をいそいで思はれし梅の花

かゝる鴨部之基真りよく讀まよふ

子松

都早春 白川の岡の梅の影をいそいで思はれし梅の花

春 月 忘れし昔の影をいそいで思はれし梅の花

忍 意 及たがく影をいそいで思はれし梅の花

離 竹 影をいそいで思はれし梅の花

草庵廿日言傳を入道浄元まよふ

延引をいそいで思はれし梅の花

春夕霞 花をいそいで思はれし梅の花

梅間鶯 言をいそいで思はれし梅の花

夜増恋 我をいそいで思はれし梅の花

春曉月 花をいそいで思はれし梅の花

丹鳥齋書

富秋草虫 風共 葉をひらきて花首のむくしり下葉をたのむる 玉共

古寺竹 寺のしきりては 凡八上

廿八日修理大夫の家の月次

園路霞 り霞も 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる
草漸青 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる
久聞虫 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる
霞障遠樹 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる
藤繞庵 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる
寄繪虫 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる
名匠圖 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる

子林

二月三日大膳大夫の家の月次

朝見花 露をたのむる 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる
夕惜花 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる
落花風 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる
五日修理大夫の家の月次
春 曙 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる
花 白 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる
河 鳥 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる
寐覚梅香 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる
未飽郭公 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる 花共 花をたのむる

子鳥

寒草纒残心
恨不逢
往事如夢
八日下部敏景與行の月次

八日下部敏景與行の月次

帰 鳥毛衣
待 花
曉 鐘
鶯
花
聞

門 枚 甲

十一日草

初春海
夜思花
穿舟
獨夢覺
夕遠望
十二日草

推路早嚴

見花忘身

古寺鐘 鐘の清の十なり

廿日草庵月次

花 衣 まれもいそぎよむ花のよもむと抱きよの相衣

花 鐘 袖を山花よもむ清のよもむ葉とよもむ花らん

花 白 梅 白梅よもむ花のよもむ花のよもむ花のよもむ

交^當花 山 花 山花のよもむ花のよもむ花のよもむ花のよもむ

花 雲 雲のよもむ花のよもむ花のよもむ花のよもむ

暮春花 暮春花のよもむ花のよもむ花のよもむ花のよもむ

廿二日荻原久元

霞隔浦 梅庵もみぬ名もむ花のよもむ花のよもむ花のよもむ

花

寄月出 月出を我法とせむ一人の侍もむ花のよもむ

隣家鶏^里 鶏を我法とせむ一人の侍もむ花のよもむ

同日細川上総久家

初 春 春のよもむ花のよもむ花のよもむ花のよもむ

野宿梅 鶯のよもむ花のよもむ花のよもむ花のよもむ

架 恋 恋のよもむ花のよもむ花のよもむ花のよもむ

山 家 家のよもむ花のよもむ花のよもむ花のよもむ

廿四日飛鳥井中納言雅親

春 月 月のよもむ花のよもむ花のよもむ花のよもむ

立名恋 立名恋のよもむ花のよもむ花のよもむ花のよもむ

旅 行出にさく人かきせん社まかり道乃心

廿七日花のいのかたよふ人 仁林寺の

ほろろのむを人ほふ次白蓮舎

人 仁林寺の

待 花 花のいのかたよふ人

里 花 社まかり道乃心

山家花 とく人のたのむ

社頭花 社まかり道乃心

五日修理たまた家の月次

采中春雨 花菜

子孫

苗代蛙声 花のいのかたよふ人

隔物會魚 花のいのかたよふ人

春 月 花のいのかたよふ人

惜 花 花のいのかたよふ人

寄布恋 花のいのかたよふ人

野水少 花のいのかたよふ人

六日山名弾正河家 花のいのかたよふ人

見花忘身 花のいのかたよふ人

落花風 花のいのかたよふ人

寄鳥恋 花のいのかたよふ人

子孫

春思出 心の海も思の浦も舟の心も
春旅行 心の海も思の浦も舟の心も

廿日草庵の月夜

藤花隨風

吹く風も花も舟の心も

舟一本

船中暮春 心も舟も花も舟の心も

古寺夕鐘

心も舟も花も舟の心も

同残雪

心も舟も花も舟の心も

忘夜

心も舟も花も舟の心も

慶賀

心も舟も花も舟の心も

廿三日或人の月夜

丹雀

賭

弓九字もの事心も舟の心も

野行幸

心も舟も花も舟の心も

空傀儡

心も舟も花も舟の心も

廿六日細川右京大夫孫元家の月夜

藤花年久

心も舟も花も舟の心も

霞隔山

心も舟も花も舟の心も

瀧

心も舟も花も舟の心も

空塵恋

心も舟も花も舟の心も

曉更聞鶏

心も舟も花も舟の心も

廿八日高松神前の月夜

丹鳥書

橋上苔あやうきむらさきの花を掃く
五日右京大夫家の月次

夕顔花を掃くむらさきの花を掃く

窓布恋を掃くはるの月夜を掃く

釋教を掃く四十の月夜を掃く

六日修理大夫家の月次

餘花を掃くはるの月夜を掃く

郭公を掃くはるの月夜を掃く

渡舟を掃くはるの月夜を掃く

當坐 照

射夏山の月夜を掃く

瞿

麦一斗の月夜を掃く

憑

恋を掃くはるの月夜を掃く

窓

燈籠を掃くはるの月夜を掃く

十日回家よす大井の月夜を掃く

百の月夜を掃く

霞

空清一夏の夜を掃く

歎

冬を掃くはるの月夜を掃く

萩

涼を掃くはるの月夜を掃く

丹鳥叢書

月 人の心は海の中流にけりてなほなほ
 落葉いづれも海の中流にけりてなほなほ
 逢不逢志 志も心もあはれん其の思ひのたのしみ
 山 山は海の中流にけりてなほなほ
 祝 十九日兵部補家の月次
 夏 衣 衣は夜の日の影にけりてなほなほ
 簾 葵 葵は夜の日の影にけりてなほなほ
 曉 山 鳥の羽は夜の日の影にけりてなほなほ
 嶺 照射 嶺は夜の日の影にけりてなほなほ

る林

家延恋 侍あひ人の心の花延うつろふ
 霧中橋 橋人の心の花延うつろふ
 廿日草 草も月次

夏夜月 月も心もあはれん其の思ひのたのしみ
 採早苗 田中なるはつたの行のたのしみ
 忘易恋 恋も心もあはれん其の思ひのたのしみ
 梅 雨 雨も心もあはれん其の思ひのたのしみ
 家岡恋 恋も心もあはれん其の思ひのたのしみ
 温泉 泉も心もあはれん其の思ひのたのしみ
 廿二日 松神も月次

路夏草 おららぬ夏月路 あつし 草花 俄とあつしの旅人
 月前郭公 詠る月 あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る
 夕松山 抄ゆ谷の あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る
 廿八日草花住吉法樂寺合

新樹 古の林 あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る
 郭公 あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る
 磯浪 少水衣 あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る
 廿七日 あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る
 廿日草花の月次 あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る

~~~~~

水 鶏 あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る  
 氷 室 夏の日 あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る  
 浦松 あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る  
 見花 あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る  
 夏約恋 あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る  
 暮山雲 あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る  
 廿日 あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る  
 小舟法樂 あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る  
 梅風 あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る あつし 草花に あつし 詠る

暮秋雨 たつゆ 夕暮の雨は 涼しき風を 吹かす 木立の  
 漁舟火 いさな かけぬ 舟の火を 照らす 舟の火を  
 夕暮の雨は 涼しき風を 吹かす 木立の  
 夕暮の雨は 涼しき風を 吹かす 木立の  
 夕暮の雨は 涼しき風を 吹かす 木立の  
 夕暮の雨は 涼しき風を 吹かす 木立の  
 夕暮の雨は 涼しき風を 吹かす 木立の  
 夕暮の雨は 涼しき風を 吹かす 木立の  
 夕暮の雨は 涼しき風を 吹かす 木立の  
 夕暮の雨は 涼しき風を 吹かす 木立の  
 夕暮の雨は 涼しき風を 吹かす 木立の  
 夕暮の雨は 涼しき風を 吹かす 木立の

夕暮

霞知春 あせ 山も春の 霞を 見れば 春の 霞を  
 雨時雨 あめ 雨の時雨 雨の時雨 雨の時雨  
 寄車恋 あそび 寄車恋 寄車恋 寄車恋  
 松為友 まつ 松為友 松為友 松為友  
 十日高松神前 十日高松神前 のあそび  
 暁照射 あけぼの 暁照射 暁照射 暁照射  
 山家標 やまが 山家標 山家標 山家標

丹鳥叢書

恥人恋らく浦の延きのみめいしんかまの世はよめりて  
十一日兵部少輔の紅葉のまきしよゆき  
女の中ふらふいものまきふけ二枝をゆたくと  
あをー

秋のこころを枝の二葉よめりて  
十三日草庵住吉法樂の合五月のまきしよ  
あをく延しをーまきしよ

瞿麥露 たてぬもいふまきしよ  
水上堂 たてぬもいふまきしよ  
逢増意 まきしよ又葉まきしよ

まきしよ

十七日兵部少輔家乃月次よ

見池蓮 淡色のよこまきしよ  
夕納涼 おくみのまきしよ  
田家鳥 六月のまきしよ  
梅 <sup>常坐</sup> 雨 まきしよ  
逢 忘 <sup>こころ</sup> まきしよ  
山家鳥 馴 我意のまきしよ  
十九日高松神前合六月のまきしよ  
夕 顔 まきしよ  
向 泉 まきしよ

丹鶴業書

暎<sup>カキ</sup>

栖谷の暎おほはる下の暎おほはる暎おほはる暎おほはる

廿日草庵の月あはれ

月 扇の月も枝も風もぬるし園の角も枝も葉も草も

松下水 夏川のあはるうねね枝のさすはるあはるあはるあはる

奮 忠 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

海上霞 このふきはなれはるさの波あはるも風あはるけ

獨聞水鳥 たつ鳥よびうもあはる枝よもほおつあはるあはる

空弓 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

空水 秋 教 ままはるげ一度の花をく水あはるはるあはるあはる

廿一日平曾院坊丸田更坊よく言あはるしよ

子林

夏 月 滝川の早瀬の月もはる流もあはるあはるあはるあはる

鶉 川 ちんくは調のちんくは調カキちんくは調ちんくは調ちんくは調

嶺 松 嶺の松も松も松も松も松も松も松も松も松も松も松も

山首 夏 枝の枝も枝も枝も枝も枝も枝も枝も枝も枝も枝も枝も

連夜 待 忠 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

胸消 是非 あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

廿三日三舟も佛也庵も元人丸の秋信あはるあはるあはる

葉のあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

同日草庵信吉法樂のあはる

子鳥書

夕三暗 乙津人のらふ霞の清くはるる夕なせり風  
 晚風涼 六月のさきさきとてはるる夜は林のさき  
 江上舟 舟のさきさきとてはるる舟のさきさき  
 同日夏原利永葉のよの照るをとてはるる舟のさき  
 なすむ 就乃びよとてはるる舟のさき

かた

八月大橋たすはるる舟のさき  
 舟のさきさきとてはるる舟のさき

樹陰蟬 蟬のさきさきとてはるる舟のさき

子松

恨 恋 舟のさきさきとてはるる舟のさき  
 徑 雨 舟のさきさきとてはるる舟のさき  
 深山滝 舟のさきさきとてはるる舟のさき  
 七月朔日夏原元貞舟のさき

立 秋 露のさきさきとてはるる舟のさき  
 待七夕 舟のさきさきとてはるる舟のさき

菰 玉 舟のさきさきとてはるる舟のさき  
 菰 風 舟のさきさきとてはるる舟のさき

宗會 舟のさきさきとてはるる舟のさき  
 神社 舟のさきさきとてはるる舟のさき

丹鳥集書

七日修理さまの家より七十を遠く乃井

七夕鳥 早合の橋もかきね静やらの川敷に静やらの

秋時雨 りるの時の雨の下に葉は静やらの

秋契恋 ろる中の契に秋の葉は静やらの

秋水郷 秋の葉は静やらの

八日草花位を法樂の合

雨邊薄露 ろる露の雨に静やらの

秋夕傷心 かきね静やらの

宮月恨恋 人さす静やらの

十日高松神あ合

高松

初秋衣 夏衣けさる風きて秋の衣

秋田風 ろる風の静やらの

十一日中原高忠無行もく一讀あ合

風告秋 一葉舟かきね静やらの

月出山 日の出静やらの

松積年 げを静やらの

早秋露 <sup>當</sup>花も静やらの

空滝意 静やらの

海路 静やらの

廿七日兵部が輔あ合



在明月消やうけは我世の心は月影の如く  
 移香恋 あらうたの白雲の如く  
 旅宿曙 明けぬ入江の波は舟の如く  
 八日大塚大又家より信濃の国へ申す

分 秋 言因のこの秋の心は夜更けの如く  
 鐘声送秋 山は秋の心は雲の如く  
 寄夢恋 消さるる夢の心は雲の如く  
 暮林鳥宿 衣も鳥の心は雲の如く

十日高松神前哥合

初雁作字 なる秋の心は雲の如く

る松

草露映月 ひ月のたよりをさうづる人の心は  
 依恋祈身 みゆ縄をさうづる人の心は  
 十一日草衣新造より信濃の国へ申す

多来  
 每秋月同 言はれぬ秋の心は雲の如く  
 都早春 言はれぬ春の心は雲の如く  
 虫聲幽 けれも露清の心は雲の如く  
 時 雨 おもひぬれ秋の心は雲の如く  
 初逢恋 言はれぬ恋の心は雲の如く  
 山 家 言はれぬ家の心は雲の如く

丹鳥書

十二日草庵も信吉は樂が合ふ

月 衣のきよしのしほしほ清くはきよはる月のはらけ  
菘 聖へんしほしほきよきよのしほしほはらけはらけはらけ  
寺 ままの世の祇のしほしほのしほしほはらけはらけはらけ

十五日右馬込入道も合ふ

闰中月 侍人の新もあつたつた新入園もあつたつた  
竹間月 向くよきの内もあつたつた昔の秋乃秋の月  
漁父掉月 いづれはよしの秋もあつたつた秋の清もあつた  
月似扇 手にあつたつた秋の清もあつたつた秋の清もあつた  
樵夫帰月 山人の秋もあつたつた秋の清もあつたつた秋の清もあつた

十七日兵部少輔家の月次

秋 田 ささきえん秋田もあつたつた秋の清もあつたつた秋の清もあつた  
立待月 花ふんやあつたつた秋の清もあつたつた秋の清もあつた  
渡 舟 改つたつた秋の清もあつたつた秋の清もあつたつた秋の清もあつた  
初秋雲 <sup>當坐</sup> 乙律風あつたつた秋の清もあつたつた秋の清もあつた  
寄鹿恋 山はち秋の清もあつたつた秋の清もあつたつた秋の清もあつた  
遠村曙 山はち秋の清もあつたつた秋の清もあつたつた秋の清もあつた  
十九日順法寺住侶專順法橋真行よく二を褒  
貶高座よくあつたつた

古郷月 うらりやの秋の秋の月次古郷の秋の月次

暮天鴈 鳴くる音おのろの玉葉を 袂たるさぬ枝のさぐせ  
名所杏 延き舟おぼろのささけのしほの松葉まらむら

廿日草庵の月夜

曉残月 秋のよもやまの月夜から入る涼の友の流のさぐせ

秋遠望 山々の梢をしのぐ秋のよもやまの月夜から入る涼の友の流のさぐせ

寄水魚 水の中の氷をたたく秋のよもやまの月夜から入る涼の友の流のさぐせ

初鴈近 當坐 おのろの音もあはれ秋のよもやまの月夜から入る涼の友の流のさぐせ

誓 恋 ハカ 水の中の氷をたたく秋のよもやまの月夜から入る涼の友の流のさぐせ

旅泊夢 舟中のたゆまぬ秋のよもやまの月夜から入る涼の友の流のさぐせ

同付定家と日追昔と彼をさしよつと句のさぐせ

子松

おのろの音もあはれ秋のよもやまの月夜から入る涼の友の流のさぐせ

あ 水の中の氷をたたく秋のよもやまの月夜から入る涼の友の流のさぐせ

さ 水の中の氷をたたく秋のよもやまの月夜から入る涼の友の流のさぐせ

おのろの音もあはれ秋のよもやまの月夜から入る涼の友の流のさぐせ

おのろの音もあはれ秋のよもやまの月夜から入る涼の友の流のさぐせ

九月十日の松葉まらむら

菊 水の中の氷をたたく秋のよもやまの月夜から入る涼の友の流のさぐせ

紅 葉白さのよもやまの月夜から入る涼の友の流のさぐせ

獸 水の中の氷をたたく秋のよもやまの月夜から入る涼の友の流のさぐせ

丹鶴書

十二夜 秋の夜長よくもく寝るあまの月

九月十三夜 風もくもく秋の夜長よくもく寝るあまの月  
月前鹿 鹿もくもく山月もくもく東の風よ  
空月夢 秋の月明もくもく秋の夜長よくもく寝るあまの月

十五日 桂原 唱食もくもくあまの月

月前秋風 花やもくもく月の中桂とあまの月  
田里秋月 秋の月明もくもく田里の月  
對月述懷 月もくもく秋の夜長よくもく寝るあまの月

十六日 草庵 住吉法樂あまの月

月前行客 小春もくもくあまの月

子秋

故郷擣衣 秋の夜長よくもく寝るあまの月  
空秋露恋 秋の夜長よくもく寝るあまの月

廿日 草庵 月次

秋霧濕袂 旅人の秋の夜長よくもく寝るあまの月  
林葉漸黄 秋の夜長よくもく寝るあまの月

白河関風 秋の夜長よくもく寝るあまの月

當坐

江 萩 秋の夜長よくもく寝るあまの月

空戸恋 秋の夜長よくもく寝るあまの月

美し

嶺 椿 秋の夜長よくもく寝るあまの月

十月十日 高松神前あまの月

聞時雨 ちよりの嵐もさきよりのやふ哉めくつる時をらん  
 朝河氷 曉の氷くはじけりしの約のむつあふつらん  
 寄星恋 あひまうけのまきとんきまのけむむ契や唐宮のま  
 十五日永春院ふ故岩栖院道観之十二  
 右京たまおまをくは経一部のま焼香よ乃  
 けー彼経のうまをまよまつら

七とせはまきまきとんきとんき入のせとん法の灯火  
 岩栖院よま道よまらとん七ヶ年ケルのけいそひ侍  
 ーまらしたる

十七日兵部が捕の家ノ月次

まね

時 雨 行月のまきとんきとんきのなめいあふらんけ  
 落 葉 神吾月まきとんきとんき打な一我多村のけいそひ侍  
 逢 恋 トまのまきとんきとんきの昔のまきとんきとんき  
 初冬嵐 嵐ふく宿の木のまの夜のまきとんきとんきとんき  
 寄裳恋 恋まから上裳の流まきとんきとんきとんきとんき  
 鶴立洲 みるまきとんきとんきの花まきとんきとんきとんきとんき  
 廿日草屋月次  
 時 雨 冬まきとんきとんきとんきとんきとんきとんきとんき  
 河千鳥 東恋まきとんきとんきとんきとんきとんきとんきとんき  
 恋 恋まきとんきとんきとんきとんきとんきとんきとんきとんき

原雪里人の夢の伴はるる  
 寄書恋うし中よあはれ  
 浦松行人も松らしし  
 廿七日守信真行まゝ  
 寒草垣にあはれ  
 祈恋うけあはれ  
 恨恋あはれ  
 旅宿風ふりぬの枕  
 廿八日友原元貞真行の月  
 暮山木枯かたひの消  
 子枯

蘆葉帯霜 延々小舟  
 老眼易覚 ふゆまの老  
 時雨 木葉も秋  
 空の篠恋 枕とく  
 旅泊松風 舟の内  
 十一月三日大橋  
 初冬時雨  
 尋處恋 忘見  
 河上筏多 志波  
 四日右京大夫家

丹鳥書

里時雨 うらみりやとまじし使もく里とひのせはくもく  
 雪中残馬 一ゆゑの翅のまをまじし使もく里とひのせはくもく  
 窓扉虫 かま火の影消くのもちねよなるをほくもく  
 夕樵夫 こけくもく道ふたはくもくたのむもく  
 十三日草庵住吉法樂あ合ふ

枯野嵐 なほほり緑のまをまじし使もく里とひのせはくもく  
 遠山雪 白妙のまをまじし使もく里とひのせはくもく  
 契夕恋 かま火の影消くのもちねよなるをほくもく  
 十八日細川掃部助賢秀百首あ合ふ  
 浦霞 まるきくもく清一あもくもくもくもくもくもくもく

五林

更衣 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
 霞 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
 逢不遇 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
 松 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
 廿日草庵の月あ合ふ

朝寒松 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
 屋上霞 そのまをまじし使もく里とひのせはくもく  
 市雑 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
 嶺初雪 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
 向爐火 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

高浦迄 たかうら 延喜の延喜の風はほろほろと吹く

芦間鶴 あしま あきまの氷の意はあつたか

廿六日高松神前あひまの合あひま

寒松 さむ 朝あさの霜しもはあつたか

行路雪 ゆくじゆ 雪ゆきはあつたか

晚鐘 ゆふかね 鐘かねはあつたか

廿八日高松浦家の月次つきごころ

曙水鳥 あけみづ 水みづはあつたか

雪隨風 ゆき つらつらなる風の流ながはあつたか

暮山松 ゆふやま 山やまはあつたか

冬

橋落葉 はし 葉ははあつたか

空簾垂 そら 簾すだはあつたか

洲鶴 す 鶴つるはあつたか

十二月四日右京大夫家の月次つきごころ

落葉 おち 葉ははあつたか

馴急 な 急いそはあつたか

懐奮 なつか 奮ふるはあつたか

七日藤原元貞與行の月次つきごころ

寒月 さむ 月つきはあつたか

松雪 まつ 雪ゆきはあつたか





祝

言 孫のついでに母のついでに父のついでに母のついでに父のついでに  
 同日濃州より後京の味をいふと山の小松おろし  
 うけしつゝ老の滝を竹の筒より短冊を  
 せしむるは法をむすむ松をいふも礼をいふ也  
 け一松をいふ一松をいふ一松をいふ人か法経といふ  
 ちのふを納く即礼拜をせけるふけ松回  
 やし礼をなすも一松も又人は松を中  
 なるものなり

彼君老の滝むし老母を養育する孝子あり  
 孝子あり

ふ酒のむ母なるは母のついでに父のついでに  
 まるくは松のついでに母のついでに父のついでに  
 ちのふを納く即礼拜をせけるふけ松回  
 やし礼をなすも一松も又人は松を中  
 なるものなり  
 二日兵部が輔家より短冊ありしよ  
 孝子あり

うき

信のちかひなきはなはたのこころのこころのこころ

五日修理を入道のこころのこころのこころ

はな

か

か

い

は

へ

遠山霞り東もまきふさのさくらんぼ

冬

餘寒月をさくらんぼのさくらんぼのさくらんぼ

名所松をさくらんぼのさくらんぼのさくらんぼ

春日

梅花薰庭をさくらんぼのさくらんぼのさくらんぼ

初春のさくらんぼのさくらんぼのさくらんぼ

擣衣をさくらんぼのさくらんぼのさくらんぼ

見恋をさくらんぼのさくらんぼのさくらんぼ

述懐をさくらんぼのさくらんぼのさくらんぼ

二月四日

立春松をさくらんぼのさくらんぼのさくらんぼ

巖上藤の書もあつて遊やう孫もあつてなめき波  
 寄柳恋の書もあつて人の樹の書もあつてなめき波  
 旅泊夢の書もあつて舟の書もあつて枕の書もあつてなめき波  
 ナニ日まゝる巨舌は樂ぢやない

柳風さう娘の枝の書もあつてなめき波  
 帰鳥まうさうとてなめき波  
 侍恋宿したのめき波の書もあつてなめき波  
 十日回孝庵月たなめき

霞中花の書もあつてなめき波  
 簾外燕つとてなめき波の書もあつてなめき波  
 子松

嶺上曙夕書の書もあつてなめき波  
 河邊鶯の書もあつてなめき波  
 岸頭歎氷の書もあつてなめき波  
 空鏡岳の書もあつてなめき波  
 海路暮友舟の書もあつてなめき波  
 廿一日泣水すれ故為愛の書もあつてなめき波  
 不依の書もあつてなめき波  
 梅交松宿の書もあつてなめき波  
 廿二日正廣書の書もあつてなめき波

早春餘寒 かなんて 春もよもよもよ 日の影のまを  
 恨詞恋 風しるまの 高し 枝はまを しのび  
 鶴立洲 なるふの 水は 波は 法は 春の 影の  
 三月又右馬 入道 花の 影の 影の 影の  
 納言 なる 影の 影の 影の 影の 影の  
 遠花如雲 なる 影の 影の 影の 影の 影の  
 空蛙恋 なる 影の 影の 影の 影の 影の

十日雨 なる 影の 影の 影の 影の 影の  
 なる 影の 影の 影の 影の 影の

五ノ

もあは 影の 影の 影の 影の 影の  
 終る 影の 影の 影の 影の 影の

漸待花 付る 影の 影の 影の 影の 影の  
 雨中花 かなんて 影の 影の 影の 影の 影の  
 山家花 なる 影の 影の 影の 影の 影の  
 依花恨風 又なる 影の 影の 影の 影の 影の  
 落花埋路 なる 影の 影の 影の 影の 影の  
 十二日草庵 恒吉法樂の 影の

春曙雨 なる 影の 影の 影の 影の 影の  
 花埋路 なる 影の 影の 影の 影の 影の

海上雲 くらみ 曇り 塔の 鐘の音 夜は 静かに 寝る  
十の 為 願は 橋の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
寝 賤き 一よ

落 花よ 望に 望は 望は 望は 望は 望は 望は  
寄 花 別恋 おも 風花 楊花の 舟の 舟の 舟の 舟の  
花 春 夢 花の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
追 加 流る 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
十八日 修理 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
楊 花の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

子 林

寄 色 花 新ぬ の 日 影 舟の 舟の 舟の 舟の  
寄 錦 花 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
寄 懷 花 花の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
十九日 と 総 舟の 舟の 舟の 舟の

早 春 風 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
名 所 月 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
寄 鷄 恋 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
樵 夫 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
同日 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の



神

祇位ぎいの御座りみまはりまの御座りみまはりま

廿二日にじふににちの御座りみまはりまの御座りみまはりま

の御座りみまはりまの御座りみまはりま

の御座りみまはりまの御座りみまはりま

立

春はるの御座りみまはりまの御座りみまはりま

山

蟬せみの御座りみまはりまの御座りみまはりま

秋

露つゆの御座りみまはりまの御座りみまはりま

江え

氷こほりの御座りみまはりまの御座りみまはりま

稀

魚うなぎの御座りみまはりまの御座りみまはりま

神

樂たのしみの御座りみまはりまの御座りみまはりま

子松

廿四日にじゅうよにちの御座りみまはりまの御座りみまはりま

春

月つきの御座りみまはりまの御座りみまはりま

空そら

夢ゆめの御座りみまはりまの御座りみまはりま

水

郷さと舟ふね里さと人の御座りみまはりまの御座りみまはりま

廿五日にじゅうごにちの御座りみまはりまの御座りみまはりま

の御座りみまはりまの御座りみまはりま

春

日ひ遲おその御座りみまはりまの御座りみまはりま

擣う

衣ぎ響ひび風かぜの御座りみまはりまの御座りみまはりま

歳

暮く雪ゆきの御座りみまはりまの御座りみまはりま

家

宿しゆく末すえ迄いたの御座りみまはりまの御座りみまはりま

曉眠易覺 暁眠易覺

廿二日正般藏之正圓上座

松

三月廿二日正般藏之正圓上座

初春日

松

三月廿二日正般藏之正圓上座

初春日

松

三月廿二日正般藏之正圓上座

松

家枕迄 懐

四月二日右京大夫家

山

霞

室

初

庭

眺

兵部少輔の

壽量品と阿弥陀經の表紙

子鳥



